

見る 知る

ミルシル

じぶんの「まち」を

ボランティアを 「やらせて頂く」

この気持ちを 持ち続けている



プロフィール
加藤正秋(かとう まさあき)さん。1941年生まれ。
趣味の水彩画は数々の美術展に入選する腕前。

今回お話を伺うのは栗ヶ島にお住いの加藤正秋さん。高根沢町シニアクラブ事務局長のほか、社会福祉協議会が開催する元気はつらつ運動教室の講師を務めるなど、地域の高齢者が元気に過ごすための活動に長年取り組んでいます。高根沢町シニアクラブは、高齢者の生きがいづくりにおいて優れた活動をしているとして、3年前に全国表彰を受けています。

地域で孤立する人をゼロにしたい

私がシニアクラブの活動で目指しているのが、地域の中での孤立を無くすこと。シニアクラブの目標の「健康づくり」と「仲間づくり」なんです。

例えば、グラウンド・ゴルフ。ある地域では、会員が集まってグラウンド・ゴルフに興じた後に、別のお楽しみがあるんです。なんだと思います？女性陣が手作りの漬物を持ってきて、皆に振る舞うんです。そうして、ひとしきりおしゃべりをする。それが楽しくて、次もまた集まる。これって、すごく良いこと尽くしなんです。身体を動かすから健康づくりになるし、漬物が「おいしい」って言われたら生きがいになるし、人と話すことが刺激になって認知症予防になる…一石三鳥くらいになります。でも、コロナ禍でそれが出来なくなっているのが残念です。

それから、シニアクラブでは年2回、春と秋に一人暮らし高齢者のお宅へ、近所の会員がレトルトカレーを届けています。町から名簿を貰う

わけじゃなくて、会員同士が情報を出し合って、「あそこの家は一人暮らしだよ」という家に届けます。これはつながりづくりのため。毎年恒例になっていて、訪問される高齢者の方も楽しみに待っていてくれるんです。ただ、クラブのない地域ではこれが出来ないの、そこが課題です。

こんなふうに、地域の中につながりを作って、公的サービスの隙間を埋める。そうすることで、地域で孤立する人をゼロにしたいと思っています。

頼まれたことは150%やる

仕事が東京や横浜での勤務だったので、高根沢町には定年後に戻ってきたんですけど、やろうと決めていたことが3つあるんです。1つ目は、社会貢献活動をする。2つ目は、趣味の絵画を描くこと。3つ目が、仲間とのコミュニケーションを大事にすること。それを今、実行中です。

私にとってボランティアは「やらせて頂く」もの。この考えは、地域で活動を始めた当初から変わりません。「誰かのためにやってあげる」なんて、思ったことないです。「私自身のために、やらせて頂く」のです。人から頼まれたことは150%やることにしています。そうしてやってあげると、自分が何かやってもらいたいときに、皆が助けてくれるんです。そうしたつながりがあるおかげで、私が何か活動したいというときには、ちゃんと協力者を得られる。大切なのは、日頃からのつながりなんです。



悲報

介護保険料
今後も増加傾向

高根沢町では今後、総人口が減少する一方で高齢者の数は増加する傾向。町の推計によると、令和7年（2025）には、高根沢町の介護サービスにかかる費用は21億円を超える見込みです。この21億円、いったい誰が負担するのでしょうか？半分は国・県・町の税金を使います。そしてもう半分は、なんと住民がお金を出します。そう、40歳以上の住民が納める介護保険料です。

朗報

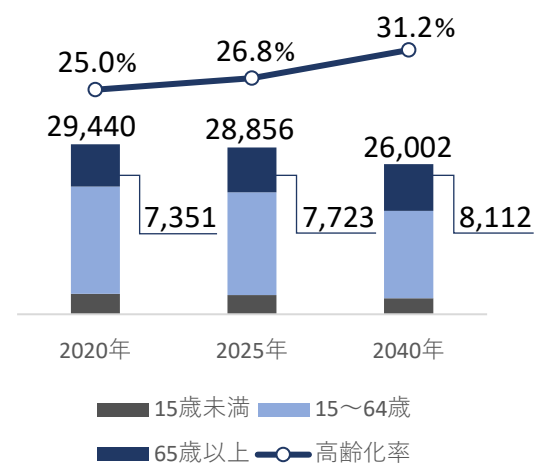
介護保険料の増加を
抑えられる可能性

公的サービスの増加が
保険料の負担増加に

これまでの仕組みでは、常時介助が必要な「重度の要介護高齢者」も、少しのサポートがあれば自立した生活を送れる「ちょっと心配な高齢者」も、介護やサポートを受けるには介護保険サービスなどの公的なサービスを利用することがほとんどでした。このことが、住民ひとりひとりの介護保険料の負担増加につながっているのです。

公的サービスに頼らない方法

〈高根沢町の人口の推移〉



出典：高根沢町高齢者総合福祉計画 第8期介護保険事業計画

実は「ちょっと心配な高齢者」に必要なサポートには、専門的な知識や経験を持つ介護のプロでなくとも、一般の住民が担うことのできるものがあります。例えば、「お買い物の荷物を持ってもらいたい」「電球交換ができない」「今日一日、誰ともしゃべらなかつた」等々。どうですか、あなたもこんな声を聞いたなら「そのくらい、やってあげるよ」と言うのではないのでしょうか？

「ちょっと心配な高齢者」へのサポートをプロでなく住民が担う。それにより、公的サービスの力を「重度の要介護高齢者」へ集中させることができます。すると、全体にかかる公的サービスの量が抑えられ、町全体の介護サービスにかかる

費用は抑えられます。結果、住民が負担する介護保険料も抑えられるのです。

支え合い・助け合いの輪

カギは、地域の中に「困ったときはお互いさま」という支え合いの輪・助け合いの輪を広げることです。まずは身近なところから。あなたのご近所には、どんな人が住んでいますか？ 普段から少しだけ気にかけて、挨拶を交わすなど、声を掛け合うことから始めてみましょう。

〈今までの仕組み〉

公的サービスの力で助ける



〈これからの仕組み〉

支え合いの力で助ける

公的サービスの力で助ける



住民の手による、「ちょっとだけ困っている人」を助けるための「支え合いの仕組みづくり」が始まっています。あなたも一緒に活動しませんか？

